

千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信 (NO.6)

2006.2.15

もくじ

1. 11 月度 (第 2 回) ボランティア活動報告 秋の一般公開
2. 1 月度 (第 1・2 回) ボランティア活動報告
 - ・シカ生息数調査
 - ・標準地調査、成長測定

11 月度 (第 2 回) ボランティア活動報告 ～ 秋の一般公開 ～

事務局 石川 輝雄

恒例の千葉演習林・秋の一般公開には 5 日間で延べ 7,443 人の方々においでいただき、大盛況に終わりました。

千葉演習林ボランティア会 Abies(以下ボランティア会)としても 13 名、一日平均 5.6 人と多くの会員の参加・協力があり、演習林の職員の方々へのサポートができたと思っています。

今年初めて行われた[演習林ガイドブック]の販売も 795 冊の購入をいただき、特に恵さんや松村さんなど女性会員の声がかれるのではないかと心配するような販売活動本当にご苦勞様でした。他の参加会員の方々も寒い中ご苦勞様でした。

今回は初日の 11 月 23 日に参加された会員の佐々木さんに感想を述べてもらいました。



ボランティア 佐々木 健

11 月度 (第 2 回) のボランティア活動は 11 月 23 日、26 日、27 日および 12 月 3 日、4 日の 5 日間にわたる千葉演習林の秋の一般公開のサポートでした。一般公開区間は普段は特別な許可がなくでは入れない黒滝ゲートから猪ノ川(いのかわ)林道・柚ノ木(ゆずのき)歩道を通して地蔵峠までです。一般公開は千葉演習林の地域と内容の理解をしてもらうために毎年春と秋に行われています。

ボランティア会の会員であるわたしも身近にそのような催しがあることを知らず、今年度初めての参加で期待に胸をふくらませて参加しました。

私の参加したのは初日の11月23日(祝日)ですが、天気は朝方から雲が多く、灰色のいかにも冬空という感じの日でした。

当日のボランティア会の参加者は岩崎夫婦・西山さんと私ども佐々木親子の計5名です。全体では演習林職員が村川さんをはじめ5名、**袋山沢水文試験地**で研究している砂防関係の学生さん8名、森林インストラクター5名と計23名と大所帯でした。

8時30分に**加勢林道入口**に集合し、出欠の確認をした後に各自の車を**黒滝ゲート**付近まで移動して、ここで開始のミーティングが行われ、職員の村川さんより入林者数のカウント、ガイドブックの販売、公開区間の巡回など今日の活動の分担と注意事項などの説明があり、各自が自分の担当活動をはじめました。車は入林者に邪魔にならないようにさらに奥に移動して**小屋ノ沢広場**に駐車しました。



今年から、個人情報法などの関係もあり、従来から行われた記帳は中止して、人数カウントをおこなうこととなり、さらに新しい試みとして演習林の生き物や研究内容を紹介した[たんけん・科学の森]というガイドブックと[千葉演習林の概要]のパンフレットを有償販売することとなりました。最初は期待通り売れるかどうか心配顔だった職員の方々も、大変興味を持

って買ってくれる入林者が増えてほっとした様子でした。

毎年今回の公開を楽しみにしている方々と天気が後半良くなるとの予報もあり、出足は好調で、午前中で600名位の入林者数となりました。

昼食後は会員の西山さんの勧めもあり、巡回を兼ねて、**黒滝ゲート**の受付の場所より、巡回も兼ねて**柚ノ木歩道**下までゆっくりと歩きました。入林者のマナー意識が高いのか、真新しいゴミなどはほとんど落ちておらず喫煙者も見かけませんでした。

午後からは環境教育の一環として地元高校生の入林などもあり、当日は約1000名の人を訪れました。公開終了時間となり、関係者一同、朝集まった**黒滝ゲート**の近くに集まり、演習林の鈴木(誠)先生の謝意があった後、各自の感想や意見を聴取して解散となりました。

今回は初めての参加で何もかも新鮮でしたが、やはり一番印象に残ったのは**黒滝**付近の真っ赤な紅葉であり、演習林の一般公開日に合わせて行われる**亀山湖・猪ノ川林道**のバスツアーは人気が高くいつも定員が一杯になることも良く分かりました。それと最近の環境意識の高まりのせいも、演習林で印刷してもらったボランティア会の募集のピラも一日でなくなる状態で驚きでもあり、嬉しくも感じました。

今後も、このようなボランティア活動に参加することで、演習林とその森林に関する理解を身につけて行きたいと思います。これからも演習林やボランティア会員の皆様よろしくをお願いします。

1 月度 (第 1 ・ 2 回) ボランティア活動報告

～ シカ生息数調査・標準地調査・成長測定 ～

ボランティア 石川 輝雄

1 . シカ生息数調査

平成 1 8 年の 1 月 1 2 ~ 1 3 日の 2 日間にわたって演習林のニホンジカ他大形哺乳類の調査がおこなわれました。

ボランティア会としては岩崎・恵さんと石川、他に日本大学卒で参加の藤田 (貴) さんの 4 名の参加となりました。



朝の打ち合わせ

参加者構成は日本大学、国立環境研究所、NPO 法人房総の野生生物調査会、演習林教員 (全演) 院生など 1 0 名前後と千葉演習林職員約 2 0 名が参加し、合計 3 0 名前後の人員が参加する大掛かりな調査です。

1 2 日の朝、8 時 3 0 分に清澄作業所の前に集合しました。晴天です。山中 (征) 先生より調査方法、調査区域の区画割、配置、調査時間、注意事項などの説明があり、午前中の区域の基地になる札郷作業所にマイクロバスなどに分乗して向かいました。

調査区域は [札郷] 2 5 ~ 2 8 林班および周囲の民地 2 3 区画です。

調査の方法はそれぞれが担当区画に入って一定時間 (1 時間 3 0 分) シカ、イノシシ、サル、キョンなど目視した大形哺乳類を記録する方法です。

私は NPO 法人 “ 房総の野生生物調査会 ” の山根先生と札郷作業所周囲の 1 4 区画の担当でしたが、山根先生がご都合で帰られ、急遽一人でやることになりました。シカなどの姿を見ることは出来ませんでした、なんとか無事に終了しました。

札郷作業所で昼食休憩をして、再び清澄作業所に戻りました。午後は [清澄] 4 3 ~ 4 7 林班および周囲の民地の 2 3 区画を午前と同じ方法で午後 2 時より 1 時間 3 0 分の間、調査をします。担当区画は 9 区画で清澄寺の裏の妙見山とその周囲です。

清澄作業所に一番近いところなので、ゆっくりとスタート時間の午後 2 時になるのを待って先ず清澄寺の本堂の裏の妙見山の頂上に向かって歩きはじめました。頂上で一休みして、地図でははっきり明示してある南東方向の尾根を下ろうとしました。しかし、どう見てもこの尾根がありません。仕方がないので、木の根をつかまえながら、尾根とおぼしい所を下りて行くと清澄寺の古い宿坊と思われる建物の裏手にでました。ここで一度お寺の表に出ようと思いましたが、出ることが出来ませんでした。

ここで元に戻ろうか迷ったのですが、時間も十分あることなのでさらに下って、とうとう谷底まで到達しました。更に谷底を下流に下り始めたのですが、何時までたっても道に

出られず、谷底の段差も次第に険しくなってきました。

とうとう調査終了時間の午後3時30分になってしまいましたので、トランシーバーと携帯電話で連絡を取ろうと思いましたが、いずれもうんともすんとも言いません。あきらめて、谷をもとに戻り、最初に谷へ下りた所を探しましたが見つかりません。

そこで兩岸を眺めると両側ともかなりの急斜面で登るには躊躇したのですが、反対側の右岸の方が見通しよく、つかまれる木が適当にあり、木の下にイズセンリョウが生えているので、意を決して登りはじめました。いつもどれかの木につかまっていなくて下まで転げ落ちるような急角度で、息はきれる、汗をかくという大変な状態となりました。全体の2/3位を登ったとき、自分の携帯電話がなって藤田（貴）さんとやっと連絡がとれましたが、この時はすでに調査終了時間から1時間10分も過ぎていて、あたりは薄暗くなっていました。

さらによじ登ると街灯とコンクリートの擁壁が見え、やっと清澄寺の千年杉の先の道に出て山中（征）先生たちに迎えられました。ほんとに山本林長をはじめ皆さんに迷惑と心配をかけ申し訳ありませんでした。

清澄寺の境内ともいえるところですが、谷が深く（地図で見ると落差は100m以上ある）下に行くほど急になる千葉の山の恐ろしさを認識しました。シカは全然見ることは出来ませんでした。

翌日の13日は曇り空で今にも雨でも降りそうな寒い天気でした。昨日のトラブルで全身くたくたで、朝起きた時にはギブアップをしようと思いましたが、清澄宿舎のおいしい朝食を食べたら元気になり、今日も参加することにしました。

朝9時00分に清澄作業所の前に集合し、今日の調査区域である郷台にマイクロバスでかけました。調査区画は[郷台]4～5、8～11林班の25区画を午前10時15分より1時間30分間です。私の調査区画は当初、職員の福岡さんと郷台作業所南西の7区画とのことでしたが、ここはかなり大変な場所らしく、国立環境研究所の立田さんと組んで元清澄山への自然遊歩道から北上する中ノ沢の12区画に替えてもらいました。昨日のことで懲りたので、今日は尾根から外れないようにコースを往復しました。

入口と一番北側でシカの声聞くことができましたが、姿を見ることは出来ませんでした。終了後、郷台作業所で昼食をとり、調査結果のとりまとめを行い、清澄作業所へ戻って解散となりました。

今年のシカの生息密度（頭/平方km）は[清澄] 2.0、[札郷] 12.0、[郷台] 5.0とのことで、昨年の [清澄] 3.2、[札郷] 2.4、[郷台] 9.5と比較すると[清澄]・[郷台]は減少傾向、[札郷]は増加傾向となったそうです。



まとめの様子

2. 標準地調査および成長測定

平成18年の1月19～20日の2日間にわたって1月度(第2回)のボランティア活動がおこなわれました。この2日ほど前の天気予報では千葉県南部の降水確率が50～60%と雨が降ることが確実な予報でしたが、私の晴れ男の効果か二日とも良い天気になりました。(ちなみにその次の21日は大雪で千葉市でも10cmほどの積雪があり、札郷では30cmほど積もったようです。)

当初、岩崎・西山・相川・恵さんと石川の5名の参加予定でしたが、岩崎・西山さんが急遽都合が悪くなり、相川・恵さんと石川の3名の参加です。恵さんは20日のみの日帰り参加です。

最初の19日は当初計画の枝打ちをやめて標準地調査をすることになりました。標準地調査とは、森の樹木の全体の状態を推測するために必要な、標準的な場所での毎木調査です。今回は保育間伐するための予算を見積もるために行いました。



樹高の測定

造林係の大塚さん、清澄作業所の永島、唐鎌、朝生さんと相川さん・石川の6名で車に乗って、本沢林道を登り、最初の調査地である大窪(おおくぼみ)44林班 C₁₀ 小班(林齢: 26年)に向かいました。この場所へ行く途中には観音滝があり、以前、その林道沿いの樟林(くすりん)歩道を整備したところのある場所です。

最初はスギ林の調査です。テープで20平方メートルに調査地を区切り、中にある木の全てについて、胸高直径(木の地上高さ1.3メートルあたりの直径を輪尺(りんじゃく)で測る。)と樹高(バーテックスというデジタル樹高計で測る。)を測定しました。このスギ林の上にあるヒノキの林についても同様な方法で測定をしました。

終了後に清澄作業所に昼食のため戻り、午後は車で清澄寺の左横から一杯水林道を通り、菖蒲沢36林班 C₁₂₋₁ 小班(林齢: 17年)のスギ林を午前と同じ方法で調査しました。

この場所は石尊山の電波塔の関係かどうか、バーテックスにエラーがでて木の高さの測定に大塚さんたちは苦労していました。

調査はかなり早く終わったので、車で麻綿原の天拝園と一杯水林道の途中、南に下って願人坊を巡林して、天津小湊や鴨川の仁右衛門島など海まで見える景色を楽しみました。

翌日の20日の活動は成長測定です。参加者は職員の大塚さん、札郷作業所の鈴木(祐)さんと恵さん、相川さん、石川の5名です。札郷作業所経由で今日の目的地である郷田倉(ごうたくら)27林班 C₄ 小班に向かいました。ここは今年の5月に成長測定を行った場所で林齢111年という、演習林の中でも有数なスギの美林です。

この林の中に、シカなどの獣害からスギ苗を保護する筒(ヘキサチューブ)や防獣柵など色々なものが設置されています。大塚さん、恵さん、石川の組と鈴木(祐)さん、相川さんの二組に分かれて測定をしましたが、私たちの組の受け持ち範囲は ダイニーマ(超

高分子量のポリエチレン（超高強力・高弾性繊維）製の防獣柵で囲われた区域、ラティースネット（ナイロン製の防獣柵）で囲われた区域、防獣柵なし・ヘキサチューブ・ラクトロンネットが交互に植えられている区域の3区域に各々当初49本（7×7）のスギ苗が植えられている所です。

測定項目は、地上10cm高さの直径と胸高直径（但し、高さ1.3m以上の場合）と樹高とシカなど動物の被害のレベル・被害高さです。

結果はダイニーマ製の防獣柵で囲われた区域は、柵が破られた跡はなく、スギ苗は1mから最高2m近くまで、正常に育っています。ラティースネットで囲われた区域は入口の下が30cm位開かれていて、多分イノシシが入ったような状態になっていましたが、スギの苗にはイノシシやシカが食したような跡はありませんでした。しかし、そのあと、ウサギが入ったらしく、高さ30～60cmくらいの高さで芯ごと斜めに切られたような食害が、かなり見られました。防獣柵なしの部分はかなり苗が失われていて、わずかに残っている苗も、地面にはりついているような状況でした。この場所には、シカ、イノシシ、ウサギともかなり生息していることが予測されます。



ウサギによる被害

測定がお昼を少しまわった時点で終了したので、札郷作業所へ戻って昼食をしました。寒い日でしたので、糟谷さんが用意してくれた豚汁をごちそうになりほっとしました。

今日の活動予定は終了したので、午後は仙石（せんごく）林道を登り、十里倉（じゅうりくら）の巡林をしました。仙石林道は札郷作業所より、清澄の方に県道を下って途中左方向に登る林道です。瘦尾根を削った険しい林道で地層がむきだしになっており、大変険しい所です。地質学に興味のある人なら大変参考になる場所と思いました。林道の終点近くからは下にヨモギ沢と向いの山が見渡せ、北側は石尊山方面と遠くは養老溪谷方面まで見渡せる展望のすばらしいところです。

谷底から尾根まで、一面に常緑広葉樹の天然林（林相図によれば林齢は53年）で、おおわれ、尾根のところどころに、モミヤツガの大木を見ることが出来るという、南千葉の植物相の見本みたいなところです。道端にはカンアオイのチョコレート色の花が咲いていて、春の花が豊富な時期にまた、見せてもらいたい場所です。

そこから、清澄作業所に戻り、今年最後の活動も終了となりました。

=====

千葉演習林ボランティア会 Abies通信 No.6 2006/2/15 発行

*事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3-1-2-102 石川輝雄

*東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770 TEL:04-7094-0621

FAX:04-7094-2321 E-Mail:chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp